

名古屋の蜻蛉目総括, 昔と今

高崎 保郎

〒465-0026 名古屋市名東区藤森一丁目14

Summary on the Order Odonata of Nagoya City, Aichi Prefecture, Japan, the present and the past

Yasuo TAKASAKI

14, Fujimoriittyme, Meito-ku, Nagoya, Aichi, 465-0026, Japan

要旨

本稿は名古屋市の蜻蛉目に関し, 市内の主たる棲息場所, 市関係文献, 総記録種を記し, 70有余年に亘る市のトンボの状況を簡略ではあるが総括した. これが後世の市動物相究明の一端に資することを期待するものである.

はじめに

市のトンボ相についてのまとまった刊行物としては, 近年では新修名古屋市史, レッドデータブックなごや2015などがあるが, これに至近のデータを加え, 2017年8月現在既知の全86種をリストした. その中で, 温暖化によると考えられる北進拡大を続けるタイワンウチワヤンマは, 本市にあって2011年の初発見以来, 既に20ヶ所程の止水域で記録されている. 本稿の主題は市内の重要と思われるトンボ棲息場所における状況について, 新旧の様子を対比しつつ概観したものである. 多くの場所で衰退傾向がみられる. その状況を知る一助として, 目録中の市レッドリスト該当種にはそのランクを付した.

1. 市内に存在するトンボ棲息地

戦後暫くは戦前同様旧市内にあって良好な緑地, 水系は存在しトンボの種と量は少なくなかった. 昭和30年代の昭和の大合併により旧市内周囲の農村耕地, 丘陵二次林地帯が加わり, 一時期市域の自然環境は増大した. 然し, この周辺部の急激な開発都市化により, それは激減劣化し, やがて今回見る様に主として都市公園条例に基づく公園緑地として細々と残存する姿になったことは

周知の通りである. 市の緑被率は年々低下し, ため池も1965年の約360から2014年には110程に急減し, その用途も灌漑用から洪水調整, 公園景観用に変り, 土の岸からコンクリート護岸化が進み, 質共劣化した. 詳細については市緑政土木局の各種刊行物を当たられたい.

トンボ幼虫の棲息にとって水質は大いに関与すると考えられるが, 個々の池沼, 河川について述べるのは冗長に亘るので, 総体的な経年傾向を「市内河川・ため池・名古屋港の水質の変遷(市環境局, 緑政土木局平成28年3月)」に基づき手短かに述べるに止める.

ため池が灌漑に用いられていた頃には, 水抜き, 底ざらえなどの管理により水質悪化が防がれていたが, 管理放棄が水質汚濁や植生変化に拍車をかけた. 市では主要ため池のCOD, 富栄養化の原因となるT-N, T-Pなどの検査を継続的に実施しているが, 近年でも目標値を達成する池は40%程としている.

昭和初期頃迄は殆どの河川に魚影濃く水浴も可能と伝えられている. 昭和30年代後半には産業活動の活発化, 生活排水の増大により年々汚濁は進行していった. 昭和40年代の公害対策関係法令の制定とそれに基づく地方公共団体の公害対応開始により, その後徐々に水質は改善されて行ったが, 昔日の様には戻らない.

以上の概況を念頭に水域を伴う都市公園・緑地を主体に、調査又は資料収集したトンボ棲息地（図1）の今昔の状況を区毎に記す。

1. 千種区

(1) 東山公園（動植物園）周辺

現在の立地は動植物園を主体とした北半と道を挟んで天白区北端に位置する東山公園テニスセンターがある天白町八事地区とそれに接する名東区を含む南半で構成されている。

東山動植物園は昭和12年に完成した。その周辺の現在の本山、八事辺りから東方へ、愛知郡猪高村（現名東区）、天白村（現天白区）境辺り迄の丘陵地は耕地も交えた二次林に覆われ、水域も多様な地帯で戦前から1950年代位迄名古屋の昆虫同好者にとって最も優れた採集地の一つであった。代表は当時多産したギフチョウであろう。

宅地開発がまだ進んでいなかった現在の茶屋ヶ坂、自

由ヶ丘を含むこの東部丘陵二次林地帯のトンボについては、本誌第2巻で詳述した。

市RDB絶滅種のコバネアオイトトンボ、ベッコウトンボ、マダラナニワトンボ、危惧種の各種サナエトンボ類を始め今日迄に63種が記録された。この内15種を越える種が今では見られなくなり、1970年代以降新たに分布が確認された種は5種程である。現在この辺りのトンボを対象としたまとまった調査はなされていない様であるので現存種については明らかでない。

(2) 平和公園

区内で東山に次ぐ大緑地。墓地を主体とし、猫ヶ洞池を含む北半と、二次林と水域が存在する南半部と、それに接する名東区星が丘山手の新池で構成されている。この南半部を会場として1988年オリンピックを開催しようとした県の企みは1981年のIOC総会で幸いにもソウルに負け、二次林は生き残ることができた。この折県議会質問に対する県担当部の「名古屋市東部の丘陵地は酸

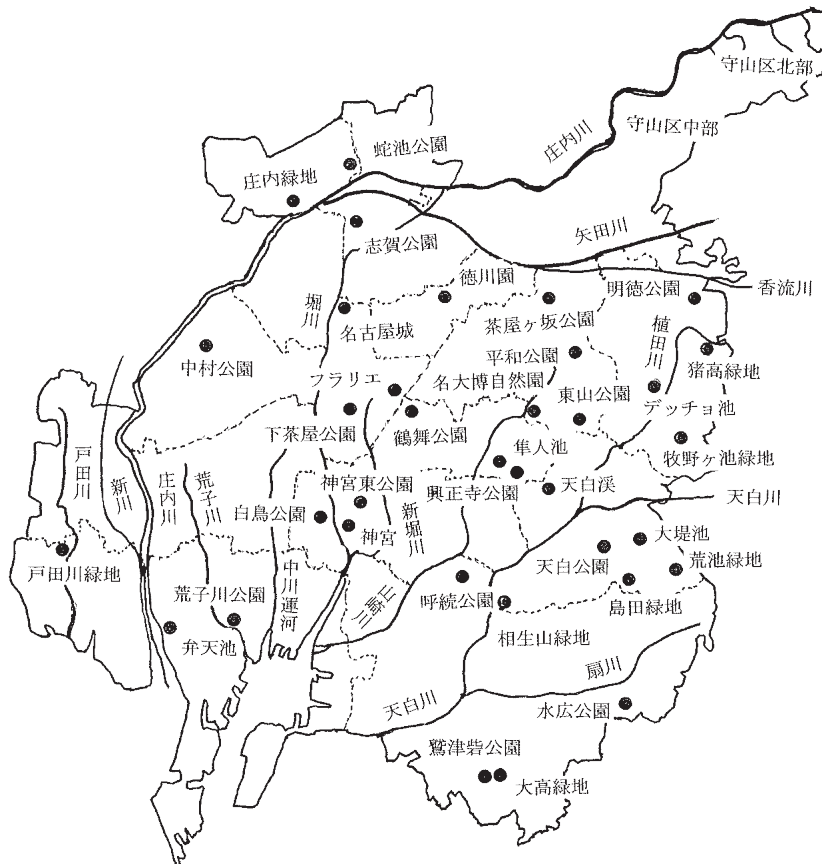


図1. 市内のトンボ棲息地

性土壌で雑木しかないやせ地であるから、これを整地した後できちんと植樹すれば、環境の変化はあっても環境の破壊はない」と言う危弁とも無知とも取れる今では考えられない答弁は忘れられない。

猫ヶ洞池は1960年代迄は広い向陽湿地を付帯する良好な池で、ハッチョウトンボ、オオキトンボなどを産したが、今では注目すべき種としてはトラフトンボ位である。水は濁りヒシが優占するがイトトンボはクロイトトンボを見るだけである。

南部地区北端にあった大きな湿地には、かつてミドリシジミ、サラサヤンマを多産した。近年整備されつつある南部の湿地状部では市内では稀なエゾトンボの記録がある。ハッチョウトンボが産する状態ではない。

平和公園全体では28種がリストされている（横地、2004他）。

名東区ではあるが平和公園と一体として扱われる新池は、戦前では見向きもされなかった人工的な池であったが、近年周囲の植生や、西洋スイレンは問題があるところではあるが水草も増えたことにより、ベニイトトンボ、ムスジイトトンボなども記録され池沼の普通種は一通り見られる意外に良いハビタットとして成長した。2005年現在非公式なものであるが15種類がリストされている。

（3）鍋屋上野町、茶屋ヶ坂池

市街地只中の池ではあるが比較的多くの種が記録されている。但し柵や密生したヨシ帯で汀には近寄り難い。1990年代にはベッコウトンボも一時的に飛来した。以前はオツネイトンボ、ムスジイトトンボ、キイトトンボ、マイコアカネなどを産し、多少の流れもあるのでオニヤンマも見られた。

1940～1950年代にはこの辺りから本山や末盛の交叉点方面の丘陵地では、モートナイトトンボ、ハグロトンボ、タバサナエ、オグマサナエ、ハッチョウトンボ、さらにはマダラナニワトンボなども産した。

（4）宮東町、名古屋大学博物館野外観察園

名大構内の南西角にある園地小樹林内に、人工の浅い小池と直径数十cmの幾鉢かが設置されており、前者にベニイトトンボ、後者にハッチョウトンボが見られる。園管理者の吉野技官を介して得た元教養部教授の言によると、半世紀ほど前教養部がそこに出来て、圃場と池が設置された時点で、メダカを飼っていた鉢にハッチョウ

トンボが居たと言う。当時農学部東辺りにあった湿地にもハッチョウトンボが居たとのことである。恐らくベニイトトンボも同様に同所に居たであろう。構内のここからやや北の今は人工護岸であるが、元は遠浅の池であった鏡ヶ池からは1973年にベニイトトンボが記録されている。とにかく状況から判断して今は名大構内のこの辺りが東山公園と一体の自然豊かな東部丘陵二次林、耕地であった頃からの残存の可能性が高い。筆者自身も1950年にこの辺りでネアカヨシヤンマ、ハッチョウトンボなどを採集している。

2017年現在人工小池に産卵するベニイトトンボを実見し、ハッチョウトンボも初夏には鉢に居たとのことである。泥底の浅い開水面とオオバナイトタヌキモ等水生・湿生植物が適度に生育する鉢からハッチョウトンボが継続的に発生するのは珍しい。ここが星が丘山手の新池産ベニイトトンボの移動分散源であった可能性もある。

2. 東区

（1）徳川町、徳川園

当区内には、そこそこの池を伴う緑地は殆ど無い。その中であって本園は広大な池を有する場所である。由緒ある施設であるがメインの龍仙湖は実は2004年にグラウンドを廃して築造完成した新しい浅い日本式人工池である。地下水を循環させており水は清澄である。ここのトンボは公にされたことが無いので、2017年6月、7月の各1回だけであるがリストする。クロイトトンボ、セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、タイワンウチワヤンマ、チョウトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、特筆すべきはイトトンボ類が多種居ることで、池には一隅に若干のスイレンが栽培されているだけであるが、セスジ、アオモンが普通、クロ、ムスジは少ない。

セスジイトトンボはかつては名古屋城堀、中村公園太閤池始め市内の多くの池に産したが、今や安定的多産の池は天白区大堤池位である。その中で今も新しい人工池に多産することは驚きである。残存の由来はよく判らない。園内には他に昔からあった林縁のやや暗い池や人工石組みの流れもあるが、これらは本種の棲息に適さない。庄内川辺りからの飛来も考えられる。池には大量のコイが放流されており池底生活型のヤゴには適さない。タイ



図2. 徳川園竜仙湖，2017. 7. 6



図3. セスジイトトンボ♂，竜仙湖，2017. 7. 6

ワンウチワヤンマは羽化直後であり定着と見られる（図2，3）。

尚，近くの筒井一丁目に所在する古刹建中寺は街中にあるが戦後暫く迄はカラスアゲハを多産し，寺内の池にはマルタンヤンマ，ヤブヤンマ，トラフトンボ，タカネトンボ，オオヤマトンボ，チョウトンボ，ヨツボシトンボなどが産した。

3. 北区

(1) 平手町，志賀公園

名古屋城築城時，北区辺りは沖積平野の沼沢地であった様だが，現在庄内川以南で池を伴う公園は区内では名城公園を除いて本園だけである。かつてこの公園は比較的良好な所であったらしいが，2017年現在池の岸は石組み水は緑色に濁り水生植物を欠きコシアキトンボしか見られなかった。この様な池でも2016年にタイワンウチワヤンマの記録がある。

4. 西区

(1) 比良，蛇池公園蛇池

西区は北区と同様の地勢で，庄内川以南に池を有する公園は無い。蛇池公園は庄内川右岸の旧山田村に存在し，池は織田信長縁の伝説がある。丁度区境で北区楠町如意の遊水草地の池が堤を挟んで隣接するので一緒に扱う。

蛇池はかつてはベッコウトンボの記録もあるが，2017年現在では水色緑色で濁り水生植物を欠くが岸には草本・木本が生育する。イトトンボ類を全く見ず，コシアキトンボ，シオカラトンボのみ。ウチワヤンマ，タイワンウチワヤンマの両方を見る。遊水草地の池も沈水・浮葉植物を欠くがヨシ等抽水植物などが岸を取り巻く。ア

オモンイトトンボの他はコシアキトンボ，シオカラトンボのみ。

(2) 庄内緑地

庄内川の右岸，遊水池を兼ねる。広大樹林に富むが3カ所ある池は濁り，人工的な岸，沈水・浮葉植物を欠き一部には植栽のハス等が生育する。2013年，2014年はモノサシトンボ，キイトトンボ，クロイトトンボ，アジアイトンボ，コフキトンボ，ショウジョウトンボなどが見られたが，2017年はコシアキトンボのみ。

5. 中村区

(1) 中村公園太閤池

中村区は庄内川右岸への張り出しは無い。戦時中頃迄は公園から西は殆ど耕地であった様に記憶する。区内の池を有する公園は中村公園のみである。太閤池と他の二つの池も石直立の人工護岸，水色緑色で沈水，浮葉植物を欠き岸にメリケンガヤツリを散見する程度である。1970年頃迄は，アオイトトンボ，セスジイトトンボ，ムスジイトトンボ，アオモンイトトンボ，アジアイトンボ，マイコアカネ，キトンボ，コフキトンボ，シオヤトンボなどを産したが，2017年現在では，稀にクロスジギンヤンマ，多いのはコシアキトンボのみである。タイワンウチワヤンマは定着する。

6. 中区

(1) 名古屋城と周辺

名古屋城は熱田台地の北西端に位置し，その北西は沖積低地が続く。戦後の城内は整備する余裕がなく，灌木，草本がおい茂り，南外堀町沿いの空堀は瀬戸電の線路に沿い，食糧確保の為の畠となり，せせらぎも流れオタマ



図4. 久屋大通庭園フラリエ, 2017. 7. 7



図5. 産卵中のアオモンイトトンボ♂型♀, フラリエ, 2017. 7. 7

ジャクシや魚が居た。この様に昆虫にとっては好環境が暫く続いた。また、庄内川沿岸の水田、畠作地帯から町並みを越えての飛来交流もあったに違いない。よごれの少ない水堀には沈水・浮葉植物も豊富であった。

城内にはハグロトンボが多く、堀にはベニイトトンボ、セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ、チョウトンボ、コフキトンボなどを多産し、オグマサナエ、フタスジサナエ、キイロサナエの様な現在では考えられない種も採集できた。

1960年代には濃尾平野の池沼に生育する水生植物の殆どが存在した良好な水堀の水環境は諸要因により徐々に富栄養化し水生植物減少が進み1980～90年代に全ての沈水・浮葉植物が全滅しトンボ類の存続に大打撃を与えた。

1970年代迄の記録34種、その後発見された3種を加え、2013年現在で1947年以来の総記録は37種となった。名城公園を含む2015年の再調査では17種を記録したという(松沢, 2016)。水堀北の北区に属する名城公園は練兵場(小学生の時軍馬にニンジンをやりに行った)、戦後市営住宅になった所を改修し公園化したもので池も新設された。年月を経て植生も豊富になり近年は比較的好環境になって来た様である。往年の名古屋城のトンボについては本誌2巻で詳報した。

(2) 橋二丁目, 下茶屋公園

園内に池があるが、やや樹陰で黒色泥底水色黒色であるが汚濁は余り無い。部分的に抽水植物があるが沈水、浮葉植物を欠く。2017年はオオシオカラトンボを見たのみ。この公園の存在する名古屋東別院一帯は1960年

代頃迄は比較的トンボが多かった様で、街中であってキイトンボなどの記録がある。

(3) 大須四丁目, 久屋大通庭園フラリエ

街中にあるラン、多肉等園芸植物を扱う整った庭園である。程々に樹木もあり、大きく浅く石製底の水澄明な人工池がある。熱帯スイレン群落若干と岸に植生がある(図4)。1998年当初「ランの館」として設置された直後からアオモンイトトンボを見たが、2017年には多産し特に♂型♀が多い。他にショウジョウトンボと多くのオオシオカラトンボを見たが、濁った池で最多のコシアキトンボはここでは少ない(図5)。

7. 昭和区

(1) 鶴舞公園

最大の竜ヶ池を始め3個の池があるが、岸はいずれもコンクリート又は石の人工護岸。1950～60年代にはモノサシトンボ、オツネイトンボ、クロイトトンボ、アジイトトンボ、コフキトンボなどを産したが、岸にヨシ等植生豊富な池、一部にハスとウキクサ類が密生する池があるにも拘わらず2017年にはイトトンボを全く見ず、ギンヤンマ、チョウトンボ1頭、コシアキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボが居ただけで公園の規模の割には貧弱である。

(2) 隼人町, 隼人公園隼人池

協議会、地元愛護団体により保全、池干し活動が実施されている。2009年のため池一斉調査時はアオモンイトトンボ、ギンヤンマ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボの5種に止まった。かかる池でも80年弱前の1941年にはハッチョウトンボを産した。

(3) 八事本町，興正寺

多少の水域もあり，昔の採集地の一つであった．1990年代にはエゾトンボ，飛来したナゴヤサナエの記録がある．

8. 瑞穂区

1950年代名古屋市大塚学部附近で，ヤブヤンマ，クロスジギンヤンマ，ギンヤンマ，ハグロトンボ等の断片的な記録がある．棲息適地は無い．

9. 熱田区

(1) 熱田神宮

中区から南下する洪積台地の最南端地帯．1950年代神宮では中部日本自然科学教室の観察会などが行われ生物調査もされていた．1950～60年代には，オオアオイトンボ，モノサシトンボ，ネアカヨシヤンマ，マルタンヤンマ，コノシメトンボも確認されている．1970年代に至り熱田神宮林苑保護委員会による調査が行われベニイトトンボを含む22種が記録されている（安藤，1978）．2011・2012年の協議会による調査では，池の環境悪化もあり9種しか記録されず，しかもその殆どは飛来と目されている．

(2) 熱田西町，白鳥庭園

神宮の堀川を挟んだ対岸の沖積低地に位置する．1991年に開園された日本式庭園の中に人工の清澄で抽水・浮葉植物が生育する止水域と急流・緩流域を有する．2016年の調査でクロイトトンボ，ムスジイトトンボ，アオモンイトトンボを含む17種が記録された（松沢，2017）．

(3) 六野二丁目，神宮東公園

水源からの人工細流と浅い石底の人工池が存在する．水色緑色でやや濁る．イトトンボは全く見ず，ショウジョウトンボ，シオカラトンボのみ．

10. 中川区

庄内川右岸の旧富田村を含む沖積低地に位置する．区内に水域を有する公園・緑地は見つけられなかった．

11. 港区

庄内川右岸の旧南陽町を含む沖積低地に位置する．

(1) 旧南陽町地域

現在もかなりの水田が残存するが，側溝のコンクリート化などで往時の水田に伴うウキクサ類始め水生植物豊富な緩流域，止水部分は姿を消し，イトトンボ類を始め水郷地帯のトンボ相は衰退しており，1990年代末迄は東茶屋附近で記録されているモートンイトトンボ，セス

ジイトトンボなど今では貴重な種類は見られなくなった．協議会の2013・2014年西部水田調査では，アジアイトトンボ，ギンヤンマ，コシアキトンボ等普通種にタイワンウチワヤンマを加えた6種しか記録されていない．

(2) 多加良浦町，惟進第一公園弁天池

庄内川左岸ヨシ帯の近くであるが現在は住宅地である．池本体は水色黒色沈水・浮葉植物も無いが，一側にスイレンが生育する緩流部を付帯し，2017年現在ギンヤンマ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボが見られたがイトトンボは居なかった．1970年代にはキイトトンボ，ベニイトトンボ，セスジイトトンボ，ムスジイトトンボ，アオモンイトトンボなどを産した．

12. 南区

笠寺辺り迄は台地が北から先細りで突出し左右は沖積低地である．

(1) 呼続四丁目，呼続公園曾池

1968年から1970年代初期の本公園と隣接の荒浜池を中心とした南区の詳しい調査記録がある（清水他，1972）．港区と南区境の堀川畔の近接両区の貯木場やヨシの生えた所で発見された若干のヒメマイトトンボは本市で最初で最後の唯一の記録であった．その他2ヶ所で見られたベッコウトンボやベニイトトンボ，メガネサナエ，ナゴヤサナエ，ネアカヨシヤンマなどを含む48種が記録された．2014年の呼続公園曾池の再調査ではモノサシトンボ，アオモンイトトンボ，ムスジイトトンボを含む15種の残存が確認されたと言う（松沢，2016）．

13. 守山区

都市のトンボ相を論ずる趣旨の主体は，一般に市街地内に点状に孤立して存在する緑地を最後の砦として如何に残存しているかを知ることにある．この中に広大な連続する優れた緑地帯が混ざると，当然種数，個体群のスケールも増大し，苛酷な条件下で細々と棲息する都会のトンボの実相がゆがめられる結果を招くことになる．一側全部が庄内川河川敷に接し，東側は瀬戸市の丘陵と尾張旭市の広大な森林公園の緑地と隣り合い，緑被率低下の進行が市内で最悪と雖も，まだ市内最大の緑地面積が連続して残存する守山区は，将来はいざ知らず少なくとも現状ではその様な特異な場所である．猿投山麓に続く丘陵・低山帯との昆虫交流にも有利な位置にある．実際現在市内で守山区だけに定着すると推定されるトンボの

種はサナエトンボの大部分を占める次の15種程を数える。ニホンカワトンボ, アサヒナカワトンボ, ミルンヤンマ, コオニヤンマ, オナガサナエ, アオサナエ, ダビドサナエ, オジロサナエ, (タベサナエ), オグマサナエ, フタスジサナエ, ミヤマサナエ, ホンサナエ, キイロサナエ, (ヤマサナエ), ムカシヤンマ, (ハネビロエゾトンボ), ミヤマアカネ () は不確実。これが一区だけで名古屋市のトンボの多様性を押し上げる結果になる。当然市域の一部ではあるが現時点では当区のかかる特殊性を念頭に置いた上で, 大都会名古屋のトンボ相を考察することを忘れてはならない。昔は守山区北・中部への交通の便が悪く, 下志段味以北へ足を伸ばすことは少なかった。本数が少ない国鉄バスが途中から通いだったが, 普通は瀬戸電小幡駅から徒歩で現在の小幡緑地辺りまで行ったものである。古いラベルでは「竜泉寺」と皆が表記しているが, これは寺院竜泉寺附近のみを指すものではなく, 現在の小幡緑地一帯を指すものである。

本区では公園, 緑地毎に述べるのではなく区域として一括取り上げる。矢田川以北R59辺り迄は都心と変わらない。その北に所在する小幡緑地(県立)は往時に較べ著しく手が入り, ヒメヒカゲは消滅し, 全般的に居たハッチョウトンボも現在は極く限られた場所に少数残存するだけらしい。何ヶ所か存在する池や緩流でも, サナエトンボ類を見ることは無くなり, マダラナニワトンボは絶滅した。ニホンカワトンボは極く局地的に残存する所があるらしい。小幡緑地の北に続く吉根は都市化が著しいが, 南端の階子田至来川は唯一市内でミルンヤンマ幼虫1個体が採集された所である。吉根太鼓ヶ根は全く住宅地となったが, ネアカヨシヤンマ, マルタンヤンマ, ヤブヤンマ, カトリヤンマそれにオオルリボシヤンマの棲む林縁の水溜り状湿地が点在する貴重な場所であった。大森八竜には保護された八竜湿地があり, 2015年に近傍の池や沢も含め, トンボ普通種15種が記録されている(市みどりの協会他, 2015)。中志段味, 上志段味西部は宅地化が著しく進行しつつある。かつて区内に広く多産した *Trigomphus* 属3種のサナエトンボは, 現在では下志段味, 上志段味東縁の樹林帯の池にのみ産する。市境を介して後背に尾張旭市森林公園の広大な緑地帯が接する所にだけ残存することは, 本属の棲息条件を示唆するものと考えられる。中志段味の庄内川に近い才井戸

流は稀な湧水により涵養される流れや湿地帯で遺存水生植物にとっては貴重な場所である。保全団体の活動と区画整理組合による自然に配慮した保全, 対開発行動が進められている。才井戸流本流は低温, 低栄養過ぎ捕食対象も充分でない為か, ハグロトンボ, オニヤンマ幼虫しか見つかっていない。見た目に似ずこの辺りのトンボ個体数も定着種も今の処多くない。2017年現在保全団体関係者, 協議会などによりアサヒナカワトンボ, オオカワトンボの様な飛来と目される種を含む38種が知られている。上志段味境の野添川は現時点ではハビタットとしての価値がある。瀬戸市と境を成す市最高峰の東谷山(198 m) 南の麓辺りには, アサヒナカワトンボ, オオカワトンボが現在も棲息し, 愛知用水近傍の湿地ではハッチョウトンボ, ムカシヤンマなどを産するが, 近年エゾトンボを見たことが無い。附近の林縁の流れではハネビロエゾトンボ成・幼虫の記録もある。

守山区内ではほぼ現存すると考えられる種は60から65種である。

14. 緑区

台地, 丘陵地の南端で, 鳴海町を主体に区が設置された。

(1) 大高緑地・鷺津砦公園

大高緑地は区内最大の県立公園で, 琵琶ヶ池など池と湿地を有する。2013年の調査ではイトトンボは全く見られず, 近年の正規の調査報告も見ない。大高緑地の北西の位置にある鷺津砦公園の池では1960年代末から1970年代にかけてネアカヨシヤンマ, マルタンヤンマ, ヤブヤンマが少なくなかった(鶴殿他, 1974)。

(2) 鳴海町, 水広公園

園内最大の水広下池は釣堀化, 水色緑褐色で浮葉植物は無い。岸には湿生草本の生ずる部分もあるが柵があり近づけない。池畔林内に浅く水色黒色の小池が散在する。2009年の協議会ため池調査では, オオアオイトトンボ, モノサシトンボ, コフキトンボ等14種が得られ調査対象10池では多い方であったが, 2017年6月の調査ではハラビロトンボ, オオシオカラトンボ, コシアキトンボしか確認できなかった。

15. 名東区

市東部に広がる尾張東部丘陵の西端東山丘陵に天白区と共に立地する。猪高緑地南端の長久手市境にある親鸞山は標高111.1 mで東谷山に次ぐ市内第2の高さである。

(1) 明德公園

1958年に猪高緑地と共に都市計画公園に決定され、愛知郡猪高村当時の二次林、水系が残されることになった。然し、後年ため池の護岸釣堀化、廃田湿地の埋立てなどで水系に著しいダメージを与え、モートンイトトンボ、ハッチョウトンボ、平地池沼性イトトンボ類等を絶滅させた。1970年代からの記録種39種は、2015年には20種に減少した。詳細は本誌3巻に投稿してある。

(2) 猪高緑地

明德公園と同様な経緯で設置された。池沼、湿地に富んでいたが、モートンイトトンボ、ハッチョウトンボが棲息可能な湿地は植生遷移などで消滅した。最大最良の塚ノ杵池では一時ベッコウトンボ、アオヤンマも発生し、各種平地池沼性イトトンボやオグマサナエ、フタスジサナエが定着していた。1970年代からの全記録種52種は、2016年には29種に減少した。詳細は本誌4巻に投稿してある。

(3) 牧野ヶ池緑地

全域では広大な緑地であるが半分以上ゴルフ場に占拠され、県立の為協議会は関与せず正規の調査報告は知らない。牧野ヶ池はジュンサイ、スイレンが優占し岸の植生も密で汀は変化に富んでいるがトンボ相は貧弱で、2017年現在イトトンボはクロイトトンボだけである。1990年代見られたセスジイトトンボは居なくなったが、トラフトンボは2013年でも記録されている。何年前からかは不明であるがタイワンウチワヤンマは多産する。

(4) 神丘町、神丘公園デッチョ池

デッチョウとは高い処の出っ張った所を意味すると言われる。神丘公園愛護会長の言によると、1950~60年代は水は清澄であったとのことである。1988年洪水時の貯水池として大改修された。1990年代初頭には水色緑褐色、透視度13~21で良い状態ではなかった。1994年の水生植物は、コウホネ、ガガブタ、フトイ、スイレンが記録されており、愛護会は熱帯スイレンを盛んに栽培していた。この年には多数のアオモンイトトンボと少数のコフキトンボが見られた。2017年には両種は見られず少数のクロイトトンボ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、少数のギンヤンマ、オオヤマトンボ(羽化殻)でタイワンウチワヤンマ1♂の飛来もあった(図6)。水草はコウホネが優占とフトイであったが、いずれも植栽



図6. タイワンウチワヤンマ♂, デッチョ池, 2017. 7. 31

と見られる。北側市街地から流入する排水に起因するアオコの発生著しく池は全面緑色であったが、それでも普通各種の産卵が見られた。

16. 天白区

名東区と同時期の1955年愛知郡天白村を編入、地勢も名東区に同じ。

(1) 天白町八事、天白溪

現在は人工化汚濁した池が一つ残るだけの下池公園となっており無価値であるが、戦前から1960年の湿地消滅迄、湧水により涵養された湿地と池がある文字通りの溪谷であった。ヒメヒカゲの著名な産地で広く知られていた。トンボはニホンカワトンボ、モートンイトトンボ、セスジイトトンボ、タベサナエ、オグマサナエ、フタスジサナエ、シオヤトンボ等多種が記録された。

(2) 島田、天白公園大根池

1980年代初頭から奥田陸子氏を中心とした保全団体が遊園地化を目論んだ市と戦い、今日の姿の二次林地帯と大根池の自然環境を残した。1990年に市防疫センター(現生活衛生センター)の調査した18種と保全団体の調査(ショウジョウトンボ未熟か♀をオオキトンボと誤認している)を合わせた22種を1994年同団体刊行物にリストしている。2011年協議会による池干しに伴う調査で、ベニイトトンボ、トラフトンボ、マルタンヤンマを含む17種を記録している。

(3) 天白町平針大堤下、大堤池

荒池緑地北端に位置する。浮葉・沈水植物に富む優れた池であるが、秋期水面全域がアブラ(ニシノオオアカウキクサ)に占拠される。2014年現在セスジイトン

ボの多産地であることは特筆される。トラフトンボも産する。

(4) 天白町平針, 荒池緑地荒池

市農業センター西側に沿う二, 三の池を伴う緑地から荒池に至る範囲。荒池は協議会の2009年の調査でセスジイトトンボ, ムスジイトトンボを始め15種が記録されているが汀に近寄り難い。現在もこのレベルを維持しているか不明である。

(5) 高島, 島田緑地

1960年代迄平針, 島田に広がっていた丘陵二次林, 耕地, 湿地の一部2.9ヘクタールをそのまま住宅街の中に方形に残したのが本緑地である。昔の湿地, 廃田湿地がほぼそのまま残されたので由緒正しい湿地植生, ハッチョウトンボなどが今でも見られる。2014年緑政土木局は樹林地保全管理計画策定の為の調査を行った。これに合せた保全団体を実施者とする生物調査で, 1965年から1978年迄に知られていた52種のトンボの内, 2013・2014年に一応確認されたのは28種程であった。

C O P 10の時期に造成破壊された近接する所謂平針里山の消滅前の2010年の調査では33種が記録され, こことの交流, 供給が断たれたことは影響大である。

(6) 菅田三丁目, 相生山緑地

ビオトープとして新設したトンボ池があるが緑地全体としてトンボに関し特記すべきことは無い。

17. 河川

河川は止水に較べ長大で捕え難い。屹立した護岸, 人を寄せつけない岸の草本や灌木の大繁茂, 抽水植物の大群落, 足が沈む泥土などが岸辺を構成し, 調査に適する場所は案外限られ, しかもそれは出水や改修で著しく変化する。幼虫, 羽化殻はその場に定着か流下か迷う場面もある。限られた河川であるが調査, 資料収集の結果を示す。

(1) 庄内川

市に関係する川としては最大である。守山, 北, 西, 中村区の北西面, 中川, 港区内の西寄りを流れる。河岸底質は上流は砂, 小礫, 下流は泥, 大礫で, 海に流入す

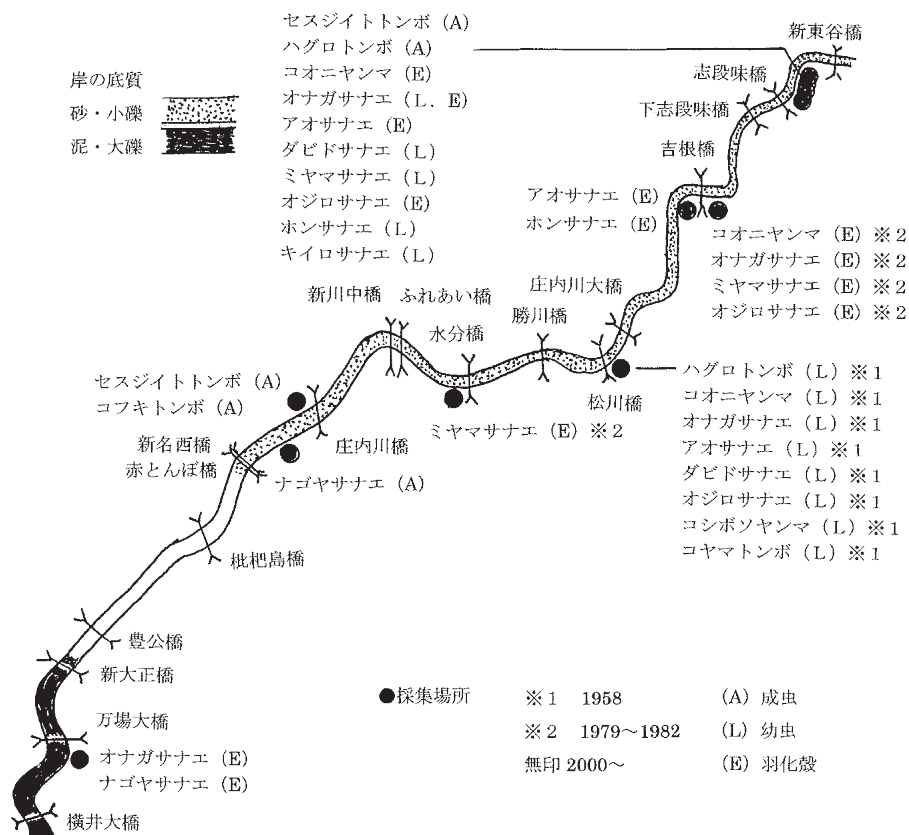


図7. 庄内川における各種採集場所

る直前は広大なアシ原を形成する。水質は1960年代から1970年代前半頃は最悪であったが，序々に改善され，現在は水分橋から上は鮎が棲める程になったが，同橋から下は製紙工場の廃水を含む支流八田川の流入により余



図8. 新東谷橋下流，上志段味・中志段味方面（左岸河畔林沿い）東谷山頂から，2013. 5. 6



図9. オナガサナエ羽化殻，中志段味西田庄内川，2013. 6. 5



図11. 泥・大礫底，中村区万場大橋下，2017. 6. 23

り良くないとされる。一見して判る様に各所（橋で表示）で記録された成・幼虫，羽化殻を図示する（図7）。上流砂礫底部では昔から現在もサナエトンボ類を主とし比較的多種が棲息するが，1950年代では幼虫が採集されたコシボソヤンマ，コヤマトンボは見られなくなった。種名が確定できなかったので図示しなかったが，恐らくニホンカワトンボと推定される幼虫も同時に採集されていた。成虫を見ることは滅多に無いがオナガサナエとミヤマサナエは今も多産する様である。市内の確実なホンサナエ，ダビドサナエ幼虫の棲息場所は現在では庄内川だけと考えられる。オジロサナエ，キイロサナエ，アオサナエ幼虫も多くはないが棲息する。2017年下流の泥底部の万場大橋下で初めてナゴヤサナエの羽化殻1個が採集された。成虫は上流の新名西橋上流で撮影されているので本種は定着していると思われる（図8，9，10，11，12）。



図10. 砂・小礫底，西区新名西橋上，2017. 7. 11



図12. ナゴヤサナエ羽化殻，万場大橋下庄内川，2017. 6. 23

(2) 矢田川

源流の瀬戸海上町の赤津川，屋戸町の山口川上流では多種の幼虫が棲息するが，山口川下流から矢田川になり尾張旭市，守山区に至ってからは殆どトンボは記録されていない。名古屋市内に入ってからには兩岸堤外地は草地が続く，汀には所々木本が孤立的に存在するが河畔でトンボを見ない。市内では水は透明澄明に見え砂礫底で藻類を生じない。

(3) 上志段味，下志段味，野添川

庄内川合流部近くは砂礫底で水は澄明，水生植物，河岸植生豊富で近年でもハグロトンボ，キイロサナエを産し，セスジイトトンボが多産することは特筆に値する。夏季は岸の草本の繁茂が著しく近付き難い。現在は良好な小河川であるが上流の開発が著しいのでいつまで続くか判らない。尚もう1本上流の大矢川の上志段味東谷内の源流ではオオカワトンボを産する様である。

(4) 香流川

上流の長久手市内にあっても底生昆虫は激減し，2010年時点で1980年代の30%程の種しか残存していない。名東区の延珠橋人道橋と引山橋を定点として長年観察して来たが，比較的大きな礫底はミズワタで被われ，1988年以降コガタシマトビケラ類，サカマキガイでさえも見られなくなった。トンボ幼虫が棲める環境でない。

(5) 港区春田野，戸田川緑地

戸田川自体からのトンボの発生は殆ど無い。緑地内に池，水田，人工細流があり，緑地周辺に水田も残存するが，2017年時点でイトトンボは見ず多いのはコシアキトンボのみ，ショウジョウトンボ，シオカラトンボも極く僅か。西の森の人工水溜りや河畔に2014年には居たアジアイトトンボも見なかった。かつての水郷の面影は無い。

(6) 港区品川町，荒子川公園

荒子川自体は高い護岸で植生無くトンボの発生は殆ど無い。二，三の人工池でギンヤンマ，コシアキトンボを見るのみ。

(7) 天白川

長久手市と日進市境の三ヶ峯丘陵を発し，日進市から天白区に至り植田川などを合し，瑞穂，緑，南区に接し海に入る長大な川である。本川で特記すべきは1970年代瑞穂区弥富町から南区大堀町辺りで，メガネサナエ，

ナゴヤサナエが多数見られたことで，その頃は本川で発生したと考えられる。その他のトンボについては本格的調査は見当たらない。

(8) 山崎川

千種区の鏡池を発し昭和，瑞穂区を経て南区から海に至る。保全団体では古老の話として，昔は川がきれいだった。魚は何が居たと言う話だけが伝えられているが，昆虫に関し正確な記録に基づく過去の姿は把握していない。本川の石川橋辺りは戦前は丘陵山脚部の知られた採集地であった。知られる最古のトンボの記録は，1936年（昭和11年）の「昆虫世界」に投稿された高木茂のものである。分類体系も確立されておらず知見も乏しい当時のこととははっきりしない部分もあるが，本川とその右岸にあった池を有する萩山公園（現在の市衛研辺り）を主とした記録である。流水性種としてハグロトンボ，ヤナギトンボ（現在のアサヒナカワトンボ又はニホンカワトンボ），コシボソヤンマ，コオニヤンマ，サナエモドキ（現在のホンサナエ），コヤマトンボなどを挙げ，止水性種を合せ31種を記録している。問題なのはグンバイトンボで，本種は丘陵から低山帯の清流に局所的に産する種であるが近似種モノサシトンボも同時に記録されていることなどから，いささかの疑義はあるがこの当時は棲息していたものと解する。山本悠紀夫氏は1945年にアオハダトンボ，オナガサナエを，1948年にニホンカワトンボ，コオニヤンマ，アオサナエ，ホンサナエ，コヤマトンボを記録しており，戦前程の清流ではないが戦後暫くは本川は余り汚染されていなかったことが判る。現在の棲息種は比較的汚濁した流水でも棲息可能なハグロトンボ，緩流にも棲むことがある最も普通なギンヤンマ，シオカラトンボ程度の貧弱な状態である。

以上公園，緑地内の止水域32ヶ所，地域1ヶ所，河川8本について略述した。

市内では概して水色が緑，褐，黄，黒色で低透明度，浮葉，沈水植物を欠く良くない池の方が多い。水質目標値達成池率40%がそれを物語る。このような池でも多いのはコシアキトンボ，次いでシオカラトンボ，オオシオカラトンボの順でこの3種が棲息環境として悪い池の代表である。ギンヤンマ，オオヤマトンボ辺りがこれに次ぐ。イトトンボ科の種の多寡は池の自然度判定の目安になる。

イトトンボの存在→浮葉・沈水植物の存在→水の透明度が高い→SSが少ない・富栄養化が進んでいない→良好な水質と繋がる。

池畔の草本、木本の存在も重要である。クロイトトンボは最も適応範囲が広く、自然度がかなり劣る環境にも存在し本種さえも居ない池は最悪である。

都心の人工池でも地下水などを順還させ良い水質が保たれていればそれなりの種が棲息する。例えば熱田区白鳥公園のムスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボを含む17種、中区庭園フラリエの移動分散の先駆者アオモンイトトンボの多産とショウジョウトンボ、最良は東区徳川園でクロイトトンボ、ムスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、特記すべきはどのようにして残存しているのかははっきりしないがセスジイトトンボの多産。

往年の東山丘陵時代の子孫と考えられるベニイトトンボ、ハッチョウトンボが今に残る名大博物館自然観察園も注目すべきである。

河川は十分に調べられているとは言い難い現状である。

このⅠの記述をさらに詳しく知る必要がある場合は次のⅡの該当文献を当たられたい。

Ⅱ. 名古屋市のトンボに関する文献一覧

1. 全市に亘る分布及び市関係事項に関するもの

- (1) 安藤 尚. 1984. トンボ類. 名古屋市守山区志段味地区自然環境調査報告書, pp.74-78. 志段味地区自然環境調査会, 名古屋.
- (2) 安藤 尚. 1984. トンボ類. 愛知県の動物, pp.63-88. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
- (3) 安藤 尚. 2008. トンボ目. 新修名古屋市史資料編 自然, pp.350-361. 同目録. pp.94-98. 名古屋市, 名古屋.
- (4) 安藤 尚・山本悠紀夫・高崎保郎・相田正人. 1990. 愛知県のトンボ目. 愛知県の昆虫 (上), pp.9-78. 愛知県農地林務部自然保護課.
- (5) 鎌田敏幸. 2003. 溜池 (名古屋市) に生息するオオクチバス, ブルーギルの食性. ため池の自然, (37): 12-15.
- (6) 松井一郎. 1951. 名古屋地方の蜻蛉. 佳香蝶, 3(3・4): 32-34.
- (7) 松井一郎. 1953. 吉田雀巢庵の「蜻蛉譜」と名古屋地方の蜻蛉相. 佳香蝶, 5(22): 1-11.
- (8) 名古屋市健康福祉局生活衛生センター. 1999. 名古屋の街と昆虫. 名古屋市健康福祉局生活衛生センター, pp.4. 名古屋.
- (9) 生活衛生センター感染症調査係編. 1999. 昆虫生息状況調査. 平成10年度名古屋市生活衛生センターの活動, 23-25.
- (10) 名古屋ため池生物多様性保全協議会事務局. 2010. 2009年度なごやため池生きものの生き生き事業報告書. 名古屋ため池生物多様性保全協議会事務局, 名古屋. 207pp.
- (11) 名古屋ため池生物多様性保全協議会. 2011. 平成22年度生物多様性保全推進支援事業名古屋ため池生き物いきいき計画事業報告書. 名古屋ため池生物多様性保全協議会, 名古屋. 81pp.
- (12) なごや生物多様性保全活動協議会. 2012. 都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 211pp.
- (13) なごや生物多様性保全活動協議会. 2013. 都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 260pp.
- (14) なごや生物多様性保全活動協議会. 2014. 平成25年度環境省生物多様性保全推進支援事業都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 232pp.
- (15) なごや生物多様性保全活動協議会. 2015. 平成26年度なごや生物多様性保全活動協議会活動報告書. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 219pp.
- (16) なごや生物多様性保全活動協議会. 2016. 平成27年度なごや生物多様性保全活動協議会活動報告書・資料編水辺の生きものの部会. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 56pp.
- (17) 高崎保郎. 2015. トンボ目. 名古屋市の絶滅のおそれがある野生生物レッドデータブックなごや2015一動物一, pp.173-334. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.

- (18) 高崎保郎. 2014. レッドリスト種調査 (2014) に伴う名古屋市の蜻蛉分布知見若干. ため池の自然, (55): 7-13.
- (19) 吉田雅澄. 2016. 愛知縣市町村別トンボ分布表 2015. *Aeschna*, (52): 55-60.
- 2. 市内の特定地域における分布に関するもの**
- (1) 阿江茂樹. 1974. 名古屋市八事・東山附近のトンボ. 佳香蝶, 26(100): 99-100.
- (2) 安藤 尚. 1978. 熱田神宮のトンボ. 熱田神宮林苑保護委員会調査報告書, pp.67-72. 名古屋.
- (3) 石田昇三. 1958. 庄内川 (サイクリング採集) 松川橋〜キッコウ橋. *Napi-News*, (24): 224-225.
- (4) 公益財団法人名古屋市みどりの協会・水源の森と八竜湿地を守る会. 2015. 八竜緑地の蘚苔類・昆虫類・クモ類. 公益財団法人名古屋市みどりの協会・水源の森と八竜湿地を守る会, 名古屋市. 32pp.
- (5) 松沢孝晋. 2011. 名古屋市天白区平針の里山のトンボ相と里山の喪失. 佳香蝶, 63(248): 93-98.
- (6) 松沢孝晋. 2016. 名古屋市名城公園・名古屋大学・呼続公園の水環境とトンボ. *Aeschna*, (53): 19-26.
- (7) 松沢孝晋. 2017. 名古屋市白鳥庭園の水辺環境とトンボ. *Aeschna*, (53): 19-26.
- (8) 成瀬善一郎. 1958. 松川橋 (庄内川) 附近水棲昆虫について. 佳香蝶, 10(34): 16-17.
- (9) 成瀬善一郎. 1957. 東山・天白附近採集記. *Napi-News*, (22): 3-4.
- (10) 清水典之・鶴殿清文・鶴殿 茂. 1972. 名古屋市南区のトンボ. 佳香蝶, 24(91): 21-23.
- (11) 清水典之・鶴殿清文・鶴殿 茂. 1972. 名古屋市南区の蜻蛉5種の新産地と種類追加. 佳香蝶, 24(93): 73.
- (12) 清水典之・鶴殿清文・鶴殿 茂. 1976. 名古屋市東南部のトンボ相. 佳香蝶, 28(105): 5-10.
- (13) 白玉星草と八丁トンボを守る島田緑地の会. 2015. 島田緑地自然生態園の植生及び昆虫相. 白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会, 名古屋. 64pp.
- (14) 高木 茂. 1936. 名古屋市瑞穂附近の蜻蛉目録. 昆虫世界, 40(464): 135-139.
- (15) 高木 茂. 1936. 追加・追記訂正数件. 昆虫世界, 40(467): 304-305.
- (16) 高崎保郎. 1950. 名城及びその周辺の蜻蛉. 双葉, (1): 7-8.
- (17) 高崎保郎. 1952. 名古屋市東山産のトンボ. 中部日本自然科学教室会報, (5): 8-10.
- (18) 高崎保郎. 1952. イトトンボに寄生するダニについて. 佳香蝶, 6(24): 7-10. [注: 於名古屋城他]
- (19) 高崎保郎. 1959. 名古屋城の蜻蛉. *Odonata*, (7): 4-6.
- (20) 高崎保郎. 1986. 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ. ため池の自然, (4): 9-10.
- (21) 高崎保郎. 1987. 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ (第2報). ため池の自然, (6): 13.
- (22) 高崎保郎. 2009. 名古屋城及び周囲の動植物誌. ため池の自然, (47): 8-18.
- (23) 高崎保郎. 2010. 名古屋市名東区の明德公園及び猪高緑地の蜻蛉今昔. ため池の自然, (49): 12-18.
- (24) 高崎保郎. 2013. 塚ノ杵池水抜き後のトンボ. ため池の自然, (54): 19-20.
- (25) 高崎保郎. 2015. 愛知県名古屋市東山公園 (動植物公園) 周辺〜都市化による棲息地の消滅〜. 失われゆく日本のトンボ生息地, 日本トンボ学会, 東京. 65pp.
- (26) 高崎保郎. 2015. 60年前の名古屋市東山と名古屋城の蜻蛉追憶. なごやの生物多様性, 2: 37-52.
- (27) 高崎保郎. 2016. 名古屋市名東区明德公園の蜻蛉と蝶. なごやの生物多様性, 3: 43-53.
- (28) 高崎保郎. 2017. 名古屋市猪高緑地の蜻蛉と蝶. なごやの生物多様性, 4: 89-106.
- (29) 山本悠紀夫. 1966. ハッチョウトンボの交尾と産卵. 佳香蝶, 18(65): 16-18. [注: 於千種区猫ヶ洞池]
- (30) 山本悠紀夫. 1968. 名古屋市内のトンボ2題. 佳香蝶, 19(73): 197-198.
- (31) 山本悠紀夫. 1968. ハッチョウトンボ成虫の生活史. Tombo, 11(3~4): 18-25. [注: 於千種区猫ヶ洞池]

洞池]

- (32) 横地鋭典. 2004. 2002年を主とした名古屋市千種区平和公園のチョウとトンボの記録. 佳香蝶, 56(218): 33-43.
- (33) 横地鋭典. 2005. 名古屋市千種区平和公園のチョウとトンボの追加記録(1). 佳香蝶, 57(222): 27-28.
- (34) 横地鋭典. 2008. 名古屋市千種区平和公園のチョウとトンボの追加記録(2). 佳香蝶, 60(233): 13-14.
- (35) 横地鋭典. 2010. 名古屋市北部を流れる庄内川・矢田川のチョウとトンボの記録. 佳香蝶, 62(242): 32-40.

3. 特定の種の市内分布に関するもの

- (1) 安藤 尚. 1955. 愛知県のマダラナニワトンボとヒメアカネの産地. 佳香蝶, 7(25): 13-15.
- (2) 安藤 尚. 1971. 名古屋のナゴヤサナエとメガネサナエ. 佳香蝶, 22(185): 163-165.
- (3) 安藤 尚. 2017. 愛知県のベニイトトンボの盛衰の記録. 三河の昆虫, (64): 877-884.
- (4) 安藤泰樹. 2011. 名古屋市千種区のエゾトンボの記録. 佳香蝶, 63(247): 29.
- (5) 石川進一郎. 2017. 名古屋市北区においてホンサナエを採集. 佳香蝶, 68(268): 62.
- (6) 岩田圭三. 1974. アメイロトンボを名古屋市内で採集. 月刊むし, (42): 38.
- (7) 中野善敏. 1975. 名古屋市内のトンボ3種. 佳香蝶, 27(102): 31.
- (8) 大塚 篤. 2001. 名古屋市中区においてサラサヤンマを採集. 佳香蝶, 53(205): 14.
- (9) 大塚 篤. 2012. 名古屋市中川区でハグロトンボを目撃. 佳香蝶, 64(250): 40.
- (10) 清水典之. 1969. 名古屋市中でナゴヤサナエとサラサヤンマを採集. 佳香蝶, 21(78): 88.
- (11) 高崎保郎. 1960. 愛知県のベニイトトンボ. 佳香蝶, 12(41): 24-25.
- (12) 高崎保郎. 1968. 愛知県のムスジイトトンボ. 佳香蝶, 20(76): 101-104.
- (13) 高崎保郎. 1969. アオヤンマを市街地で採る. 佳香蝶, 21(80): 203.
- (14) 高崎保郎. 1987. 名古屋市名東区及び日進市の溜池の注目すべきトンボ2種. ため池の自然, (5): 3. [注: ベッコウトンボ]
- (15) 高崎保郎. 1994. 名古屋市中心部地下街でサラサヤンマを採集. 月刊むし, (286): 12.
- (16) 高崎保郎. 1997. ため池の衰退を反映するベッコウトンボの滅亡. ため池の自然, (26): 1-6. [注: 塚ノ杵池他]
- (17) 高崎保郎. 1997. ハッチョウトンボとオオアオイトトンボの移動分散例. 月刊むし, (322): 32. [注: 名東区藤森一丁目他]
- (18) 高崎保郎. 2003. 愛知県のベニイトトンボ (第2報). ため池の自然, (38): 1-8.
- (19) 高崎保郎. 2004. 名古屋市におけるネアカヨシヤンマの2003年の記録. 佳香蝶, 56(218): 31.
- (20) 高崎保郎. 2012. 愛知県のベニイトトンボ (第3報). ため池の自然, (52): 13-17.
- (21) 高崎保郎. 2014. 腹部が短いベニイトトンボ. 佳香蝶, 66(258): 26. [注: 星が丘山手新池]
- (22) 高崎保郎. 2016. 2015年名古屋市名東区明徳公園のアキアカネ寸見. 佳香蝶, 68(267): 48.
- (23) 田中啓介・田中 聡・田中多喜彦. 1991. 名古屋市平和公園におけるサラサヤンマ・ミドリシジミの現認記録. 佳香蝶, 43(166): 31.
- (24) 城 欣範. 2000. 名古屋市のコフキトンボ (オビトンボ型). 佳香蝶, 52(201): 11.
- (25) 鵜殿清文. 1971. 名古屋市南区でナゴヤサナエを採集. 佳香蝶, 23(86): 42.
- (26) 鵜殿清文・鵜殿 茂・清水典之. 黄昏活動性のヤンマ3種の記録. 佳香蝶, 26(100): 95-98. [注: 主として名古屋]
- (27) 山本悠紀夫. 1965. 滅びゆくオオキトンボ. 佳香蝶, 17(64): 119. [注: 猫ヶ洞池]
- (28) 山本悠紀夫. 1969. ムスジイトトンボ *Cercion sexlineatum* Selys 桃巖寺に生息する. 佳香蝶, 21(81): 259.
- (29) 山本悠紀夫. 1983. 名古屋市周辺のオオルリボシヤンマ. 佳香蝶, 35(136): 53-57.
- (30) 山内博美・北原誠治. 1992. 名古屋市内でネアカヨシヤンマを採集. 月刊むし, (256): 36.

- (31) 山内博美・北原誠治. 1992. 名古屋市内でベッコウトンボを採集. 月刊むし, (253): 36.
- (32) 八尾俊彦. 1991. 名古屋市旧市内に飛来したヤブヤンマ. 佳香蝶, 43(166): 22.
- (33) 横地鋭典. 2008. 名古屋市内のコフキトンボ (オビトンボ型) の記録. 佳香蝶, 60(235): 236.
- (34) 横地鋭典. 2010. 名古屋市千種区のベニイトトンボの記録. 佳香蝶, 62(241): 10.
- (35) 横地鋭典. 2013. 名古屋市中区三の丸周辺の2006~2007年のチョウ等の記録. 佳香蝶, 65(255): 43-47. [注: ムカシヤンマ]
- (36) 吉田雅澄・池竹弘旭. 2009. 愛知県市町村別トンボ分布表2006への追加2. *Aeschna*, (45): 34-36. [注: ミルンヤンマ幼虫]
- (37) 吉田雅澄・八木孝彦. 2012. 東海地方3県におけるタイワンウチワヤンマの分布拡大. *Aeschna*, (48): 37-41.
- (38) 吉田雅澄・八木孝彦・鵜殿清文. 2014. 東海地方3県におけるタイワンウチワヤンマの分布拡大第3報. *Aeschna*, (50): 73-77.
- (39) 吉田雅澄・八木孝彦・鵜殿清文. 2015. 東海地方3県におけるタイワンウチワヤンマの分布拡大第4報. *Aeschna*, (51): 21-24.
- (40) 吉田雅澄・八木孝彦・鵜殿清文. 2016. 東海地方3県におけるタイワンウチワヤンマの分布拡大第5報. *Aeschna*, (52): 33-37.
- (41) 吉田雅澄・八木孝彦・鵜殿清文. 2017. 東海地方3県におけるタイワンウチワヤンマの分布拡大第6報. *Aeschna*, (53): 59-63.

III. 目録

1940年代から2017年8月迄の全記録種の目録. () 内に氏名を記したデータ以外は全て高崎の採集, 目撃, 撮影である.

全記録種86種の内市レッドリスト該当種は30種35%である. 該当種には記号を付した. 絶滅EX, 絶滅危惧IA類CR, 同IB類EN, 同II類VU, 準絶滅危惧NT, 情報不足DDである. データは全ての産地を記したものではない.

アオイトトンボ科 *Lestidae*

- オツネントンボ *Sympecma paedisca* (Brauer) 昭和区鶴舞公園, 21-VI-1953, 1♀; 千種区茶屋ヶ坂, 13-VI-1954, 2♂; 守山区上志段味西浦, 29-IV-2013, 1♂
- ホソミオツネントンボ *Indolestes peregrinus* (Ris) 中区錦一丁目2-25, 5-IX-1970, 1♂; 名東区明徳公園, 19-V-2015, 1♂
- アオイトトンボ *Lestes sponsa* (Hansemann) 中村区中村公園, 2-X-1970, 3♂1♀; 名東区猪高緑地, 4-X-2016, 1♂
- オオアオイトトンボ *L. temporalis* Selys 熱田区熱田神宮, 31-VII-1951, 1♂; 名東区猪高緑地, 25-IX-2016, 3♂2♀
- コバネアオイトトンボ *L. japonicus* Selys [EX] 千種区東山, 6-X-1951, 1♂1♀; 守山区竜泉寺, 2-IX-1956, 1♀; 天白区平針, 24-X-1970, 1♀ (清水典之)

カワトンボ科 *Calopterygidae*

- ニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys 昭和区菊園町石川橋, 13-V-1948, 7♂5♀ (山本悠紀夫); 天白区天白溪, 28-IV-1952, 1♂2♀; 守山区中志段味才井戸流, 30-IV-2017, 1♂撮影 (清水典之)
- アサヒナカワトンボ *M. pruinosa* Selys 守山区吉根, 20-IV-1958, 1♀ (松井一郎); 守山区上志段味東谷東谷山, 6-V-2013, 多数目撃
- アオハダトンボ *Calopteryx japonica* Selys [EX] 昭和区菊園町石川橋, 3-VII-1945, 4♂1♀ (山本悠紀夫); 北区楠町味鉢, 14-V-1950, 2♂1♀; 守山区竜泉寺, 26-V-1951, 1♀
- ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata* (Selys) 千種区東山, 17-VIII-1953, 2♀; 守山区中志段味野添川, 27-IV-2014, 幼虫1頭

モノサシトンボ科 *Platycnemididae*

- グンバイトンボ *Platycnemis foliacea* Selys 瑞穂区山崎川, 1936年頃, 普通 (高木茂)
- モノサシトンボ *Copera annulata* (Selys) 熱田区熱田

神宮, 24-VII-1951, 1♂1♀; 千種区星が丘山手新池, 13-VII-2008, 1♂

アジアイトトンボ *I. asiatica* Brauer 名東区猪高緑地, 14-VII-2016, 1♂1♀

イトトンボ科 Coenagrionidae

キイトトンボ *Ceragrion melanurum* (Selys) 中区錦一丁目2-25, 15-VI-1973, 1♂; 中区橘二丁目東別院, 24-VII-1971, 1♂1♀ (山本悠紀夫); 名東区猪高緑地, 12-VII-2016, 1♂

ベニイトトンボ *C. nipponicum* (Asahina) [V U] 中区名古屋城, 28-IX-1968, 1♂1♀; 港区多加良浦, 15-VIII-1972, 2♂ (清水典之); 名東区猪高緑地, 18-VII-2007, 1♂

クロイトトンボ *Paracercion calamorum* (Ris) 東区筒井一丁目建中寺, 28-V-1950, 3♂2♀ (山本悠紀夫); 名東区牧野ヶ池緑地, 28-VII-2017, 1♂

セスジイトトンボ *P. hieroglyphicum* (Brauer) [N T] 中村区中村公園, 11-IX-1968, 5♂3♀; 中区名古屋城, 28-IX-1968, 2♂1♀; 東区徳川町徳川園, 6-VII-2017, 4♂

オオイトトンボ *P. sieboldii* (Selys) [V U] 千種区東山公園, 24-V-1953, 1♂; 緑区鳴海町滝ノ水, 19-V-1979, 1♀ (安藤尚)

ムスジイトトンボ *P. melanotum* (Selys) [N T] 中区名古屋城, 28-IX-1968, 2♂1♀; 中村区中村公園, 11-IX-1968, 1♂2♀; 東区徳川町徳川園, 6-VII-2017, 1♂

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris) [N T] 千種区本山町, 12-VI-1954, 2♂2♀; 名東区明德公園, 14-VI-1975, 1♂1♀; 港区東茶屋, 8-VI-1998, 4♂5♀ (安藤尚)

ヒヌマイイトトンボ *M. hirosei* Asahina [E X] 港区木場町, 14-VII-1972, 1♀目撃 (清水典之); 南区三条町, 20-VII-1972, 1♀ (同)

ホソミイトトンボ *Aciagrion migratum* (Selys) 千種区東山, 29-IV-1952, 1♀; 守山区上志段味東谷, 14-V-2013, 1♂

アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur) 中区名古屋城, 20-VII-1968, 1♂1♀; 中区大須四丁目フラリエ, 7-VII-2017, 2♂

ヤンマ科 Aeshnidae

サラサヤンマ *Sarasaeschna pryori* (Martin) [N T] 中区栄三丁目地下街, 4-VI-1994, 1♂; 名東区猪高緑地, 24-V-2013, 1♂

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (Selys) [N T] 千種区東山, 14-VIII-1954, 1♂

ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* (Selys) 守山区吉根階子田至来川, 15-VI-2008, 1幼虫 (池竹弘旭)

アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys [V U] 中区錦一丁目2-25, 22-VI-1969, 中区名古屋城, 18-VI-1978, 1♂ (安藤尚)

ネアカヨシヤンマ *A. anisoptera* Selys [V U] 東区筒井一丁目建中寺, 15-VII-1947, 1♂ (山本悠紀夫); 熱田区熱田神宮, 18-VII-1966, 1♂ (鵜殿清文); 名東区猪高緑地, 30-VII-2004, 1♂

カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Barteneff 千種区東山, 17-VIII-1953, 1♂; 守山区吉根太鼓ヶ根, 29-VI-2004, 幼虫多数

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys) [N T] 東区筒井一丁目建中寺, 15-VII-1947, 3♂2♀ (山本悠紀夫); 守山区吉根太鼓ヶ根, 29-VI-2003, 羽化殻2個

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys) 名東区藤森一丁目14, 25-VII-1985, 1♀; 名東区猪高緑地, 27-VII-2004, 1♂

オオルリボシヤンマ *Aeshna crenata* Hagen 名東区猪高町片塚, 25-IX-1970, 1♂ (山本悠紀夫); 守山区吉根太鼓ヶ根, 24-VII-2003, 1♂ (山内博美)

ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys) 名東区藤森一丁目14, 6-VIII-2010, 1♀ (高崎静子)

クロスジギンヤンマ *A. nigrofasciatus* Oguma 名東区明德公園, 22-V-2015, 2♂

オオギンヤンマ *A. guttatus* (Burmeister) 名東区猪高緑地, 6-X-1998, 1♂ [注: 偶産種]

サナエトンボ科 Gomphidae

ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus* (Fabricius)

千種区平和公園猫ヶ洞池, 2-VIII-2017, 1 ♂
 タイワンウチワヤンマ *Ictinogomphus pertinax* (Selys)
 西区山田町庄内緑地, 13-VIII-2011, 1 ♂ (鵜殿
 清文, 市内初発見); 東区徳川町徳川園, 6-VII
 -2017, 1 ♂; 西区比良二丁目蛇池公園, 18-VII
 -2017, 1 ♂; 名東区明徳公園, 13-VIII-2017, 1 ♂;
 名東区神丘町神丘公園, 31-VII-2017, 1 ♂撮影;
 名東区牧野ヶ池緑地, 28-VII-2017, 多数目撃
 コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys 昭和区菊園町
 石川橋, 9-VIII-1948, 1 ♂ (山本悠紀夫); 守山
 区中志段味西田, 5-VI-2013, 羽化殻1個
 オナガサナエ *Melligomphus viridicostus* (Oguma) 北
 区上飯田, 13-VII-1954, 羽化殻2個; 守山区中
 志段味西田, 5-VI-2013, 羽化殻20個
 アオサナエ *Nihonogomphus viridis* Oguma 昭和区菊
 園町石川橋, 27-IV-1948, 5 ♂ 7 ♀ (山本悠紀夫);
 守山区上志段味川原, 23-IV-2016, 羽化殻1個 (鵜
 殿清文)
 ダビドサナエ *Davidius nanus* (Selys) 守山区吉根,
 20-IV-1958, 1 ♂ 1 ♀ (松井一郎); 守山区中志
 段味西田・天白, 15-IV-2013, 幼虫2頭
 オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* (Matumura in
 Oguma) 守山区中志段味西田, 5-VI-2013, 羽
 化殻1個
 タベサナエ *Trigomphus citimus tabei* (Asahina) [V
 U] 千種区茶屋ヶ坂, 13-IV-1954, 1 ♀; 守山
 区下志段味吉田, 10-V-2012, 4 ♂ (安藤尚)
 オグマサナエ *T. ogumai* Asahina [E N] 中区名古屋
 城, 3-V-1952, 1 ♀; 千種区茶屋ヶ坂, 13-IV
 -1954, 1 ♂; 守山区下志段味穴ヶ洞, 27-VI
 -2014, 2 ♂
 フタスジサナエ *T. interruptus* (Selys) [E N] 中区名
 古屋城, 29-IV-1949, 1 ♂; 千種区東山, 30-V
 -1954, 2 ♂ 1 ♀; 守山区下志段味穴ヶ洞, 27-IV
 -2014, 羽化殻3個, 1 ♂撮影
 ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (Selys) 中区東桜
 二丁目, 26-V-1975, 1 ♂; 守山区中志段味西
 田・天白, 15-IV-2013, 幼虫12頭
 ナゴヤサナエ *Stylurus nagoyanus* (Asahina) [N T]
 瑞穂区弥富町天白川, 26-IX-1973, 2 ♂; 西区

堀越町, 18-VIII-2013, 1 ♂撮影 (清水典之)
 メガネサナエ *S. oculatus* (Asahina) [N T] 瑞穂区弥
 富町天白川, 6-IX-1970, 3 ♂
 ホンサナエ *Shaogomphus postocularis* (Selys) [E N]
 千種区東山, 28-IV-1952, 1 ♂ 1 ♀; 昭和区菊
 園町石川橋, 11-V-1948, 10 ♂ 3 ♀ (山本悠紀
 夫); 守山区中志段味西田, 15-IV-2013, 幼虫1
 頭
 キイロサナエ *Asiagomphus pryeri* (Selys) [E N] 千
 種区東山, 30-V-1951, 2 ♂; 中区名古屋城,
 15-V-1949, 1 ♂; 守山区上志段味西浦, 29-IV
 -2013, 幼虫1頭
 ヤマサナエ *A. melaenops* (Selys) 千種区東山, 13-V
 -1951, 1 ♀; 守山区下志段味, 31-V-1986, 2
 ♀ (安藤尚)

ムカシヤンマ科 Petaluridae

ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* (Selys) [C R] 守山
 区竜泉寺, 8-V-1955, 1 ♂; 守山区上志段味東
 谷, 5-VI-2013, 1 ♂; 中区三の丸清水橋, 30-
 V-2006, 1ex. 目撃 (横地鋭典) [注; 飛来]

オニヤンマ科 Cordulegastridae

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys) 名東区猪高
 緑地, 26-VI-2016, 1 ♀

エゾトンボ科 Corduliidae

トラフトンボ *Epithea marginata* (Selys) [N T] 千
 種区東山, 28-IV-1952, 2 ♀; 東区建中寺, 30-
 IV-1942, 2 ♂ 2 ♀ (山本悠紀夫); 名東区牧野ヶ
 池緑地, 9-V-2013, 1 ♀
 タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Förster 千種区東
 山, 14-VIII-1954, 1 ♂; 名東区藤森一丁目, 13-
 IX-1978, 1 ♀ (高崎静子); 北区名城公園, 30-
 VIII-2008, 1 ♂目撃
 エゾトンボ *S. viridiaenea* (Uhler) [E N] 千種区田代
 町平和公園, 18-IX-2010, 1 ♀ (安藤泰樹); 守
 山区大森八竜, 1-X-2000, 1 ♂ (安藤尚)
 ハネビロエゾトンボ *S. clavata* Oguma [D D] 守山区
 上志段味東谷, 19-VIII-1983, 1 ♂ (安藤尚)

ヤマトンボ科 Macromiidae

- オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans* (Brauer) 東区
建中寺, 25-VII-1946, 2♂1♀ (山本悠紀夫);
千種区平和公園猫ヶ洞池, 2-VIII-2017, 1♂
- キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* (Okumura) [E
X] 守山区守山, 10-VI-1950, 1♂ (松井一郎);
守山区竜泉寺, 5-VI-1950, 1♂ (相田正人)
- コヤマトンボ *Macromia amphigena* Selys 瑞穂区石川
橋, 7-VI-1948, 1♂ (山本悠紀夫); 守山区上
志段味東谷山, 2-VIII-1983, 2♂ (安藤尚)

トンボ科 Libellulidae

- チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys 中区錦一丁
目2-25, 5-VIII-1974, 1♂; 名東区猪高緑地, 1-
VII-2016, 1♂
- ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys) 名東区
猪高緑地, 7-X-2016, 5♂1♀
- マダラナニワトンボ *S.maculatum* Oguma [E X] 千
種区覚王山姫ヶ池, 20-X-1941, 1♂ (山本悠
紀夫); 千種区赤坂町, 16-X-1949, 2♂ (松井
一郎); 守山区竜泉寺, 4-VII-1959, 2♂2♀;
緑区鳴海町黒石, 15-IX-1970, 2♂1♀ (清水
典之)
- リスアカネ *S.risi* Bartenev 名東区猪高緑地, 2-X
-2016, 4♂
- ノシメトンボ *S.infuscatum* (Selys) 中区錦一丁目
2-25, 31-VIII-1996, 1♂; 名東区猪高緑地, 1-X
-2016, 2♂
- アキアカネ *S.frequens* (Selys) 名東区猪高緑地, 4-X
-2016, 5♂7♀
- コノシメトンボ *S.baccha* Selys 名東区猪高緑地, 18-
X-2016, 1♀
- ヒメアカネ *S.parvulum* (Bartenev) 名東区明德公園,
3-X-2015, 1♂
- マユタテアカネ *S.eroticum* (Selys) 名東区猪高緑地,
2-X-2016, 2♂
- マイコアカネ *S.kunckeli* (Selys) 中区錦一丁目2-25,
1-X-1973, 1♂; 名東区猪高緑地, 6-VII-1986,
1♀
- ミヤマアカネ *S.pedemontanum* (Allioni) 千種区田代
町, 25-VIII-1941, 1♂ (山本悠紀夫); 守山区上
志段味東谷, 10-IX-2013, 1♂
- ネキトンボ *S.speciosum* Oguma 名東区猪高緑地, 7-
X-2016, 1♀
- キトンボ *S.croceolum* (Selys) [E N] 中区名古屋城,
7-X-1951, 1♂ (萩原真樹); 南区呼続公園,
21-X-1971, 1♂ (清水典之); 名東区猪高緑地,
18-X-1986, 1♂
- オオキトンボ *S.uniforme* (Selys) [C R] 千種区東山,
9-VII-1950, 1♀; 守山区小幡, 22-IX-1946, 1
♂ (松井一郎); 千種区猫ヶ洞池, 4-VIII-1965,
1♂ (山本悠紀夫)
- ハネビロトンボ *Tramea virginia* (Rambur) 名東区猪
高緑地, 16-VIII-1987, 1♂ [注: 偶産種]
- コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (Burmeister) 名
東区猪高緑地, 12-VII-2016, 1♂
- コフキトンボ *Deielia phaon* (Selys) 守山区中志段味
才井戸流, 29-V-2017, 1♂
- アメイトトンボ *Tholymis tillarga* (Fabricius) 天白区
天白公園, 2-IX-1973, 1♂ (岩田圭三) [注:
偶産種]
- ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur 千種
区東山, 26-VIII-1951, 1♂ [東山植物園内奥池
東の斜面に造成された湿地に存する本種は出自
不明の移入で真の東山公園産ではない]; 千種
区茶屋ヶ坂, 12-VI-1954, 1♀; 昭和区隼人町
隼人池, 1-VII-1941, 7♂10♀ (山本悠紀夫);
名東区明德公園, 22-VI-1980, 2♂4♀; 名東
区猪高緑地, 31-V-1986, 1♂1♀; 守山区上
志段味東谷, 14-V-2013, 1♂1♀
- ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* (Drury) 名
東区猪高緑地, 24-V-2016, 1♂; 中区大須四
丁目庭園フラリエ, 7-VII-2017, 1♂撮影
- ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius) 名東区
猪高緑地, 14-IX-2016, 1♀
- ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys) 中区
錦一丁目2-25, 16-V-1971, 1♂; 名東区猪高
緑地, 12-V-2016, 1♀
- シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys) 名東区
猪高緑地, 17-VIII-2017, 1♂1♀

シオヤトンボ *O.japonicum* (Uhler) 守山区中志段味才
井戸流, 29- V -2017, 1 ♂

オオシオカラトンボ *O.melania* (Selys) 港区多加良浦
町惟進第一公園弁天池, 24- VII -2017, 1 ♂

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* Linnaeus 東
区建中寺, 30- IV -1942, 1 ♂ 1 ♀ (山本悠紀夫);
名東区猪高緑地, 24- V -2013, 1 ♂

ベッコウトンボ *L.angelina* Selys [E X] 千種区東山,
30- V -1954, 1 ♂; 西区大野木町蛇池, 12- V
-1971, 1 ♂ (山本悠紀夫); 港区大江町, 25- V

-1944, 3 ♂ 5 ♀ (山本悠紀夫); 千種区茶屋ヶ
坂池, 30- V -1990, 3 ♂ (山内博美); 名東区猪
高緑地, 5- V -1987, 1 ♂

謝辞

文献でお世話をおかけした高橋昭氏, 常々情報を教示
下さる安藤尚, 鵜殿清文, 清水典之の各氏, 水生植物の
同定を煩わした浜島繁隆氏に深甚の謝意を表する次第で
ある.